



管理番号：7 2024年 7月30日版

環境経営レポート

レポートの対象期間 2023年2月～2024年1月

ワイルカンパニー株式会社 会社案内

《ご挨拶》

ワイルカンパニー株式会社は、1922年に個人商店として出発して以来、今年で創業102年を迎えます。当初の鉄材の販売から産業機器の販売にシフトし、また2004年度からは医療機器の販売も開始して幅広い取扱商品を提供することにより、当社に関わる皆様からのご要望に応え、信頼される企業となることを目指しております。

また環境活動においては、企業業活動との両立と活動の向上を目指し、PDCAのサイクルをうまく活用して両輪の輪となるべく取り組んでおります。環境活動がより推進できるよう独自の環境コミュニケーションの構築し、当社の環境方針と企業理念をもって、地球環境にやさしい企業で在り続けることが、この地域への貢献であり社会的責任であると考えております。私たちの取り組みをご高覧の上、ご指導、ご指摘をいただき、それを生かして環境活動を続けていきたいと思っております。

ワイルカンパニー株式会社
代表取締役社長 品川竜二

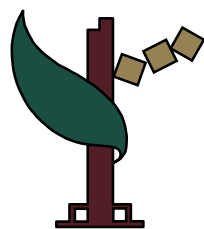


《目次》

I. 環境方針	P-2
II. 事業活動の規模	P-3
III. EA21推進体制	P-6
IV. 環境目標とその実績	P-7
V. 環境活動の取組計画と評価	P-8
VI. 環境関連法規制の遵守	P-12



この冊子は古紙パルプ100%の再生紙を使用しています



I. 環境経営方針

企業理念

企業活動を通じて、ワイルカンパニー 株式会社とその社員、関連する企業とその人達、事業地域とその人々が豊かである環境を創り出そう。

方針

当社は、企業活動がこの地域の豊かな自然の恩恵の上に成り立っていることを認識しこの自然環境に抱かれた企業となり、企業活動では環境に配慮した活動を行い、この地の自然環境の維持と向上を目指します。これは小さな活動であるかも知れないが、この活動の目的を定めプロセスを実行することは地球環境の向上に対して大きな一歩であることを確信して環境経営システムを構築して行動します。

プロセス

1. 創取 2. 実行 3. スピード 4. 継続 5. やさしさ

環境経営、保全活動

1. 構築した環境経営システムを PDCA 手法で円滑に維持し、3R の推進および CO2、廃棄物、水使用量の抑制に目標値を定め取り組みます。
2. 営業活動を通じて環境配慮型商品の販売、普及に努めます。
3. 環境配慮型商品の開発をします。
4. 業務の品質向上を目指し付加価値を高めます。
5. 環境法令を遵守します。
6. この環境経営方針は全社員が理解し、この方針に沿って活動します。
7. この環境経営方針は社外に公開します。

社是

楽しく笑顔のある会社であらう。
風を感じる会社であらう。
門のない会社であらう。

2021年 5月1日



ワイル カンパニー 株式会社
代表取締役 品川竜二



Ⅱ。事業活動の規模

1. 会社概要

会社名 **ワイルカンパニー株式会社**

代表者名 代表取締役社長 品川 竜二

所在地 〒370-0058 群馬県高崎市九蔵町 108 番地
TEL 027-323-2129 FAX 027-323-8586

WL リサーチハウス（研究開発施設）
〒370-1206 群馬県高崎市台新田町 110-1
TEL 027-329-6662

当社は生まれてから
102 年です
でも、おじいさんじゃ
ありません



創業年月日 大正 11 年 5 月 設立年月日 昭和 23 年 3 月

資本金 10,000,000 円 社員数 3 名

エコアクション21 認証・登録範囲
本社及びWL リサーチハウスを含む全ての組織

エコアクション21 認証・登録の対象活動範囲
産業機器、伝導機器、医療機器の販売 機器の設計、製造、設置

主要取引銀行 株式会社 群馬銀行高崎田町支店 株式会社 三井住友銀行前橋支店
株式会社 北越銀行高崎支店 商工中金

主たる納入先 群馬県 高崎市
東日本旅客鉄道 株式会社 朝日工業 株式会社
株式会社 小島鉄工所 和光工業 株式会社
日本ケロッグ 株式会社 光病院 他（順不同 敬称略）

所属団体 高崎商工会議所 高崎法人会

環境関連取得認証等 エコアクション21 認証・登録 群馬県環境G S事業者認定
たかさき環境パートナーシップ会議所属

2. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者： 代表取締役社長 品川 竜二
環境管理責任者： 代表取締役社長 品川 竜二、取締役 品川 洋一
担当： E A 2 1 推進事務局 品川 直美
連絡先： TEL 027-323-2129 FAX 027-323-8586



昭和10年頃の社屋 品川鉄材店

NOW AND THEN



昭和20年頃の社屋 品川機械店

沿革



販売した機械に
付けた銘板 昭
和40年頃



- | | | |
|--------|---------|--|
| 1922 年 | 大正 11 年 | 現在地に品川芳次郎が個人にて品川鉄材店を創業
鋼材を中心に機械工具を販売
後に品川機械店に改称 |
| 1948 年 | 昭和 23 年 | 株式会社品川商店を設立 資本金 90 万円
機械工具の販売が中心となる |
| 1962 年 | 昭和 37 年 | 資本金を 270 万円に増資 |
| 1995 年 | 平成 7 年 | 資本金を 1,000 万円に増資 |
| 2001 年 | 平成 13 年 | 社名を ワイルカンパニー 株式会社 に改称
産業機器の販売、製作、工事が中心となる |
| 2006 年 | 平成 18 年 | エコアクション 21 認証を取得(高崎市で第一号)
群馬環境 G S の認定を受ける(高崎市で第一号)
環境配慮型商品のカタログを編纂し、ぐんまエコ
アクション 21 倶楽部設立総会にて発表 |
| 2008 年 | 平成 20 年 | 環境活動レポート 2007 年度版が環境コミュニケー
ション大賞(環境大臣賞)を受賞
WL リサーチハウスを竣工 |
| 2011 年 | 平成 23 年 | たかさき地球市民環境賞(高崎市長賞)を受賞 |
| 2014 年 | 平成 26 年 | 高度医療機器等販売及び修理業許可証を取得。医療
機器の販売及び修理を始める |
| 2015 年 | 平成 27 年 | エコアクション 21 認証・登録 10 年継続により表彰
される |



昭和39年 社屋の前を駆け抜ける東京オリ
ンピックの聖火ランナー 近所の人も社屋
の二階から応援！



2008 年竣工の
WL リサーチハウス

エコアクション21 10周年記念式典
にて、安井理事長殿より表彰状を戴
く



3. 事業の内容

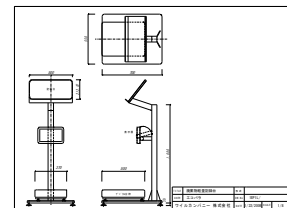
ワイル カンパニー(株)は生産工場の入口から出口までの
ライン、設備、機器の環境整備をサポートします。

私たちワイル カンパニー(株) は生産工場内での機器の販売、製造、設置、メンテナンスを行っています。
そして、その業務を通じてお客様に信頼していただける企業、提案できる企業をめざしています。ちょっとしたラインの改造、設備の変更等、ぜひご相談ください。



設備設置工事部門

各プラント内の機械器具 構造物設置
各プラント内の伝動構造物の修理サービス
シャッター 塗装 撤去等各工事



設計製造部門

金属構造物 伝動構造物
コンベア設備アルミ合金・銅合金鋳物
特殊機械工具 化成品

3つのカテゴリー

販売部門

産業機器 高度医療機器 環境保全機器
測定機器工作機器 空圧機器 油圧機器
マシンツール 伝動機器 コンベアチェーン
ベアリング 軸受用品 モーター ポンプ
減速機 シーケンサー等制御機器 切削工具
作業工具 電動・空気・油圧工具 クレーン
ホイス ト バルブ・継手 電子関連機器
輸送機器 自動車用工具 化成品
生産工場用品全般 医療機器
自動車用工具



レトロギャラリー ～時代を支えた道具たち～



油差しのパッケージ
時代を感じさせるロゴ



ベルトグラインダー



モンキーレンチの箱
レトロなデザインが秀逸

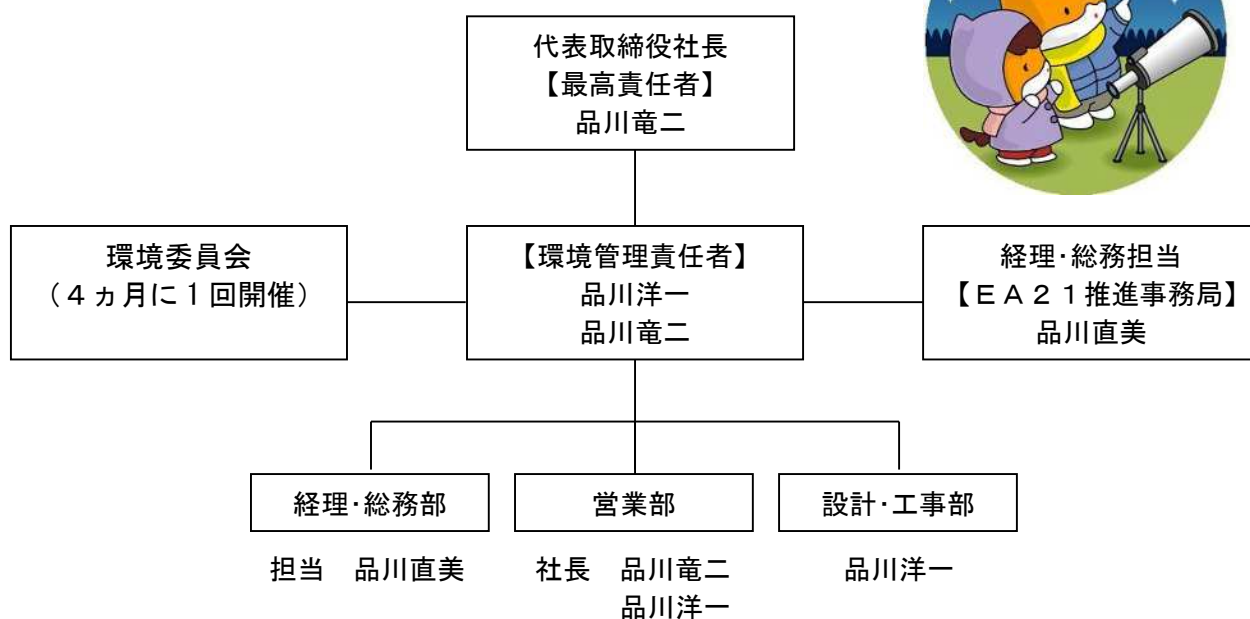


ふいご
創業者が惚れ込んだ逸品



ベアリング
今では造っていない貴重品

Ⅲ. EA21推進体制



職 名	役 割
代表取締役社長	最高責任者。環境方針を制定し、システムの見直しを行う。
取締役会長	環境管理責任者。環境委員会を運営する。
経理・総務担当	事務局（環境管理責任者補佐）
環境委員会	環境管理責任者が4ヵ月に一度招集して開催する。 最高責任者、環境管理責任者、事務局が出席する。

Ⅳ. 環境経営目標とその実績

2022 年度の環境目標を達成できるよう一丸となって活動した。



1. 主要な環境経営目標と環境負荷・実績

目標値から見た実績比

環境目的項目	管理実施項目	2021年度		2022年度		2023年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績
二酸化炭素排出量の削減	電力の削減(kwh) (%)	7,730.00	5,499.00	7,730.00	5,673.00	7,730.00	5,643.00
	ガソリン使用の削減(l) (%)	5,420.00	2,673.17	5,420.00	2,460.11	5,420.00	2,503.40
	軽油使用の削減(l) (%)	370.00	210.77	370.00	115.70	370.00	128.40
	灯油使用の削減(l) (%)	460.00	368.00	460.00	268.00	460.00	272.00
	CO ₂ 排出量の削減(kg) (%)	18,730.00	10,217.52	18,730.00	9,305.01	18,730.00	9,434.31
		現状維持	54.55	現状維持	49.68	現状維持	50.37
廃棄物の削減	可燃ごみの削減(kg) (%)	53.00	28.51	53.00	25.61	53.00	17.18
		現状維持	53.79	現状維持	48.32	現状維持	32.42
水使用量の削減	水道水の削減(m3) (%)	140.00	167.00	140.00	52.00	140.00	48.00
		現状維持	119.29	現状維持	37.14	現状維持	34.29
環境配慮型製品販売の推進	環境配慮型製品売上(千円)	27,390.00	28,969.75	28,390.00	32,882.40	29,390.00	33,743.46
		注1)	105.77	注1)	115.82	注1)	114.81

※購入電力の排出係数は東京電力エナジーパートナーの0.462とする

※目標は、2010年度実績の現状維持としていたが、2015年より新しい目標値(過去3年の平均)による現状維持とする

注1)環境配慮型製品売上の目標は、前年目標に100万円を上乗せしたものを次年度目標とする

※次年度目標は、次ページのV項目に記載してあります

実績の3前年比

環境目的項目	管理実施項目	2021年度	2022年度	2023年度
		実績	実績	実績
二酸化炭素排出量の削減	電力の削減(kwh) (%)	5,499.00	5,673.00	5,643.00
		-	103.16	99.47
	ガソリン使用の削減(l) (%)	2,673.17	2,460.11	2,503.40
		-	92.03	101.76
	軽油使用の削減(l) (%)	210.77	115.70	128.40
		-	54.89	110.98
廃棄物の削減	灯油使用の削減(l) (%)	368.00	268.00	272.00
		-	72.83	101.49
	CO ₂ 排出量の削減(kg) (%)	10,217.52	9,305.01	9,434.31
総排水量の削減		-	91.07	101.39
	可燃ごみの削減(kg) (%)	28.51	25.61	17.18
環境配慮型製品販売の推進		-	89.83	67.08
	水道水の削減(m3) (%)	167.00	52.00	48.00
環境配慮型製品販売の推進		-	31.14	92.31
	環境配慮型製品売上(千円)	28,969.75	32,882.40	33,743.46
環境配慮型製品販売の推進		-	113.51	102.62

※購入電力の排出係数は東京電力エナジーパートナーの0.462とする

上記の目標の他に、以下の取組みを実施した。

梱包緩衝材のリサイクル化

取引先各社に協力を仰ぎ返却再利用を。紙類は畳み直して再生した。

V. 環境活動の取組と評価、次年度の取組内容



1. 取組みと評価、次年度の取組内容

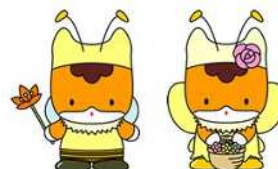
取組計画	評価
①二酸化炭素排出量の削減 目標値に対して現状維持 『目標達成手段』 1. 電力の削減 パソコンシステムの省電力化 エアコンの省エネ運転 節電点灯フォーメーション 警備システム等の活用 2. 自動車燃料使用の削減 燃費測定 省エネ運転の喚起 定期的な整備の実施 3. 灯油使用の削減の努力	目標値に対して 49.63%の削減となった。目標の現状維持をクリアしている。昨年と比較すると 1.39%の微増ではあるが現状維持といえる。 電力の削減の目標値に対して 27%の大幅減を達成した。昨年同様、パソコン・モニター等の電力こまめにカットした。エアコンの使用は出来るだけ控え扇風機を併用した。時間や状況により取り決めた場所以外の照明を消す。冬の寒さが比較的穏やかであったのも影響した。 時間に余裕を持った行動で、走行距離の短縮や省エネ運転を行ない、自動車燃料の削減を実践した。昨年に引き続きHV 車が 2 台になった効果が出ている。 昨年と同じく、冬の寒さが穏やかであったため 41.74%の大幅削減となった。小さなストーブを併用し削減を心懸けた。
②廃棄物の削減 目標値に対して現状維持 『目標達成手段』 効率の良いリサイクルのための廃棄物の分別精度UP	目標値に対して 32.42%の大幅削減となった。昨年と同様に当社を経由しない商品が多かったと思われる。廃棄物の「分別精度の向上」により再資源化が一層進んだ。 細かい部分まで分別が徹底されており、丸められた新聞紙等は伸ばすなどしてひと手間かけて資源化を行った。
③水使用量の削減 目標値に対して現状維持 『目標達成手段』 雨水の利用 ステッカーなどによる水道水節約の喚起	目標から 65.71%の削減である、地中配管からの漏水対策工事の効果が表れている。 現在活動見直し中。 常に削減を心がけなければ現状維持できない。
④環境配慮型製品販売の推進 過去 3 年の売上平均以上 『目標達成手段』 環境配慮型製品の開発 製品の情報の入手と宣伝	目標値に対して 14.81%の増加となった。昨年度から見ても 2.62%の増加である。 展示会や講習会に出席して情報収集をおこなった。修理やメンテナンス、安全に関する商品の販売に力を入れた。
⑤梱包緩衝材のリサイクル化 目標値は特に無	送られてきた梱包緩衝材を再利用できる業者様に引取っていただく取組。現在は分別精度を上げ殆ど資源化している。今年度は、引取っていただける業者様に 4.74kg 程お願いした。

次年度の環境経営目標及び環境経営計画

No.	環境目的		次年度の目標	管理項目実施事項	取り組み事項	
	項目	3年後の目標				
1	二酸化炭素排出量の削減	18,730(kg) 現状維持	18,730(kg) 現状維持	電力の削減の努力	エアコンの省エネ運転	
					点灯フォーメーション	
					節電給湯	
				自動車燃料使用の削減 灯油使用量削減努力	パソコンシステムの省電力化の推進 エコドライブ 暖房の効率化	
					ガス使用量削減努力	ガスの省エネ省コスト
2	廃棄物の削減	53(kg) 現状維持	53(kg) 現状維持	梱包材のリサイクル化	梱包材の引取りのお願い	
					梱包材の資源ゴミ化	
					年末、年始の余剰品(カレンダー、手帳等)のリユース化	
				一般ゴミの資源化・リサイクル化の推進	一般ゴミとして廃棄していたものの資源化	
					現状維持の努力	カタログ類の量の抑制
						ペーパーレス化
用紙の使用量の抑制						
3	総排水量の削減	140(m3) 現状維持	140(m3) 現状維持	現状維持の努力	節水の推進の喚起	
4	環境配慮型製品販売の推進	32,390(千円) 前年目標 +1,000(千円)	30,390(千円) 前年目標 +1,000(千円)	販売促進活動	販売方法の工夫	
				商品の開発	新情報の入手及び試行	
					開発環境の整備	
5	—	—	—	業務の品質向上	出荷、納品の正確化	
6	—	—	—	環境コミュニケーション	環境活動を通じた交流	



2. 代表者による全体の評価見直しの結果



取組みと評価から明らかなように、全ての取組計画においてほぼ目標をクリアしている。二酸化炭素排出量の削減では、目標値より大幅に削減されており、昨年とほぼ同等の削減となった。廃棄物の削減についても目標より大きく削減となった。水道水の削減に関しては、漏水対策工事後も堅調に推移し大幅削減となった。環境配慮型商品販売の促進に関しては目標を達成しており好結果となっている。

全体に環境活動が計画のとおりよく実行され、結果として数値にも表れており、良好である。依って来期も今までのとおりに活動を継続することとする。

コロナ禍における景気の動向や気候の変動といった外的要因に影響されることもあるが、環境活動を着実に続けていきたい。

2024年以降の数値目標は次のとおりである。

環境目的項目	管理実施項目	2023 年度	2024 年度	2025 年度
		目標	目標	目標
二酸化炭素排出量の削減	電力の削減(kwh) (%)	7,730.00	7,730.00	7,730.00
		現状維持	現状維持	現状維持
	ガソリン使用の削減(l) (%)	5,420.00	5,420.00	5,420.00
		現状維持	現状維持	現状維持
	軽油使用の削減(l) (%)	370.00	370.00	370.00
		現状維持	現状維持	現状維持
廃棄物の削減	灯油使用の削減(l) (%)	460.00	460.00	460.00
		現状維持	現状維持	現状維持
水使用量の削減	CO ₂ 排出量の削減(kg) (%)	18,730.00	18,730.00	18,730.00
		現状維持	現状維持	現状維持
環境配慮型製品販売の推進	可燃ごみの削減(kg) (%)	53.00	53.00	53.00
		現状維持	現状維持	現状維持
環境配慮型製品販売の推進	水道水の削減(m3) (%)	140.00	140.00	140.00
		現状維持	現状維持	現状維持
環境配慮型製品販売の推進	環境配慮型製品売上(千円)	29,390.00	30,390.00	31,390.00
	前年目標+1,000(千円)	28390+1000	29390+1000	30390+1000

※購入電力の排出係数は東京電力エネルギーパートナーの 0.462 とする

3. 目でみる環境活動（工夫と取組み）



ビニールの間仕切り

事務所とバックヤードの間に設置した間仕切り。ビニールを短冊に切り暖簾状に吊り下げたものだが、暖房・冷房に効果絶大。ちょっとした工夫で成果をあげた良い例



リサイクルボックス

入荷した荷物に使われている緩衝材を、再利用するために分別する箱。分別したものは利用できる会社様に引き取っていただいたり、自社で活用したりする。



エコパラメーター

自社で開発したデータ記入台付台秤。表示がよく見え、記入しやすい。使い始めてから測り忘れやデータの記入漏れが無くなった。



点灯フォーメーション

写真では見にくいですが、社内の見取り図に電灯が記入されており、時間よっての点灯・消灯の指示が明記されている。

＜納入業者様へのお願い＞

緩衝材と封筒のお引取りのお願い

弊社におきましては従来、納入梱包に使われていまます緩衝材と、送り状用封筒を全て廃棄焼却しておりました。この度環境マネジメントシステムを構築するにあたり、リサイクル活用の促進に取り組んでおります。

送られてきた荷物の緩衝材は、新聞紙、一般紙、スチーロールバッグ、エアパッキン、等に分別し、45Lのビニール袋詰めしておきます。また、封筒は無地のものを束ねてストックしておきます。あまり負担にならぬ様配慮いたしますので、お引取りいただき再利用をお願いいたします。お引取りいただける業者様には受け渡し方法等、別途ご相談させていただきます。これは強制ではなくお願いであります。

引取りのお願い(書面)

左記で分別した緩衝材の引取りのお願い。取引先各社様に配布しました。



環境配慮型製品のカタログ

環境配慮型製品を集めた産業機器中心のカタログ。当社で編纂し、一部商品開発も行った。左記エコパラメーターも掲載されている。(現在改訂中)

VI. 環境関連法規制の遵守状況

(1) 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守状況
環境基本法	遵法
循環型社会形成推進基本法	遵法
グリーン購入法	遵法
道路運送車両法	遵法
地球温暖化対策推進法	遵法
フロン排出抑制法	遵法
自動車リサイクル法	遵法
環境教育推進法	遵法
環境情報提供促進法/環境配慮促進法	遵法

(2) 違反については自社関係の違反はありません

また、関係機関等からも特に指摘は無く、訴訟も同様にありませんでした



※ぐんまのマスコット めんまちゃん

ぐんまのマスコット「めんまちゃん」は平成6年10月15日～16日に開催された、第3回全国知的障害者スポーツ大会「ゆうあいピック群馬大会」のマスコットとして生まれました。その後は、平成8年11月に開催された、第9回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレク群馬'96」のマスコットとしても活躍、また、平成16年10月16日～19日に群馬県で開催された、高齢者を主役としたスポーツ、文化、福祉の全国的イベント、第17回全国健康福祉祭群馬大会「ねんりんピックぐんま」でも、マスコットとして活躍しました。現在は、群馬県のマスコットとして、スポーツ活動の啓発、県の施策の普及宣伝、県内産業の発展等、県のイメージアップに大活躍しています。

※「めんまちゃん」のイラスト使用に関して

2018年3月12日に群馬県より利用許諾を受けております。

本冊子の無断での複製、転写を禁じます